

陳情書

豊中市議会議長 藤田浩史 様

2024年5月14日

大阪・関西万博に豊中市内の学校の校外学習として、 児童・生徒たちを参加させる事業の中止を求める陳情書

〈陳情趣旨〉

昨年8月、吉村・大阪府知事は大阪府内の4歳から18歳までの児童・生徒たちを万博に「無料招待」として表明。府は2023年度から2025年度にかけて、計約14億円の予算を計上しました。そして、大阪府教育庁は、学校ごとに遠足などの形で見学することを計画し、「強制ではない」とした上で、府内の学校に対して希望する来場日などを5月末までに回答するよう求めています。

今年元日に発生した能登半島地震によって、未だ多くの方々が避難所などでの生活を余儀なくされ、水道が復旧していない家も多数あります。復興の遅れは明らかで、まずは復興対策を最優先させるべきです。

3月28日、大阪・関西万博予定地・夢洲の屋外イベント広場のトイレで溶接作業中に火花が可燃性ガスに引火して爆発が起きました。コンクリートの床およそ100㎡が破損するという大事故です。しかし、実施主体である万博協会は3週間後ようやく記者会見し、地中から発生したメタンガスが地下空間に溜まっていたことが原因で、「工事業者がガス検知を怠ったからだ」と説明。対策として「ガス検知器での測定場所や頻度を増やす」と工事は続行されています。ケガ人はいなかったとされていますが、現場写真は万博協会から提供された1枚の写真だけ、現場にいた人たちの証言もまったく公表されていません。

元々、このゾーンは有害物質やメタンガスが発生して危険なので立ち入り禁止区域でした。ここで働く労働者はまさに命がけです。ゴミの最終処分地である夢洲はメタンガスを主成分とする可燃性ガス発生危険性は他にもあり、大阪市環境局の担当者は万博用地のどこでも爆発する可能性があることを認めています。こんな危険なところに子どもたちを連れて行って良いのでしょうか。子どもたちが使う駐車場の真下には有機物質が大量に埋まっているのです。

さらに、児童・生徒を引率する際の問題は山積しています。パビリオンが選べない、日程が選べない、駐車場から入り口まで約1kmを徒歩で移動しなければならない、昼食や休憩場所が確保できない、避難計画がない、熱中症など医療対策が示されていない、交通機関や交

通費負担の問題もあります。

そこで、私たちは豊中市内の小中学校校長・PTA会長に対して「本当に子どもたちを万博に参加させて良いのでしょうか」という文書を届けました。今、教育関係者からも教育的観点からの批判の声が上がり、「学校行事としては行わない」と表明する学校も出てきました。

大阪・関西万博はカジノ事業を実施するために誘致されたことは周知の事実です。カジノ＝博打事業を進めるための万博を豊中市として積極的に応援して良いのでしょうか。

これまで予算の上振れが問題になってきましたが、これからも続くことが十分予想され、経済的負担をどのようにするかについても明確にされていません。海外パビリオン建設は大幅に減少したり遅れることは吉村府知事自身も認め、「万博に行きたい」という希望者が未だ少ないのは当然のことでしょう。その穴埋めとして児童・生徒が「動員」されるのは教育権侵害・人権侵害です。

豊中市議会には、行政施策を厳しくチェックする責務があります。市議会議員のみならずには、この職責をしっかりと果たしていただきたいと願っています。

以下、陳情します。

<陳情項目>

1. 豊中市は「万博への気運醸成」キャンペーンに協力しないこと。
2. 万博が強行されたとしても、市内小中学の児童・生徒たちを万博に連れて行かないこと。
3. 5月末までの校外学習参加希望入力システムへの「万博引率計画」入力を中止すること。
4. 学校教職員や保護者、PTAなど学校関係者および豊中市民に「ガス爆発火災事故」の実態を知らせること。不安や要望などを広く集約し、万博協会へ届けること。

<陳情者>

560-0034 豊中市蛸池南町2丁目2番13号-404(090-5907-4909)

万博・カジノについて考える豊中の会

共同代表 高橋もと子

八木昌子

細見啓子